

令和2年度

第33回京都府立高等学校体育系研究発表会

京都府立高校の体育系（スポーツ健康科学科、普通科スポーツ総合専攻）設置校6校（乙訓・洛北・鳥羽・久御山・西城陽・綾部）が合同で研究発表会を行いました。バイオメカニクス、トレーニング、指導法など研究分野は様々でしたが、年々レベルが高くなっていく中、今回の各校の代表グループも大変レベルの高い研究内容でした。

今回の研究発表会はコロナ禍の影響もあり、各校からのリモートでの発表でした。

様々な部活動や普段の授業等で得た基礎知識に加えて文系・理系に限定せず総合的な能力を鍛えるために取り組んでいる研究発表です。

普通科スポーツ総合専攻の高校は卒業研究として3年生が取り組んでいますが、乙訓高校は2年生の段階で実施しています。

スポーツはただ身体を動かして競技力向上のみを目指すだけの題材ではありません。基礎学力を基本に置きながら幅広い知識、実践力、表現力を鍛えるための総合科学です。

研究発表

- (1) 「日本ラグビーの年代別の戦い方 ～ベスト8への道のり～」

池田 弘・西川 凌平・山口 温椰 （洛北高校）

- (2) 「色がスポーツに及ぼす影響」

門野 時也 （久御山高校）

- (3) 「得点圏におけるバッテリーの初球」

重村 尚哉 （西城陽高校）

- (4) 「投擲選手における体型・筋力が記録に及ぼす影響について」

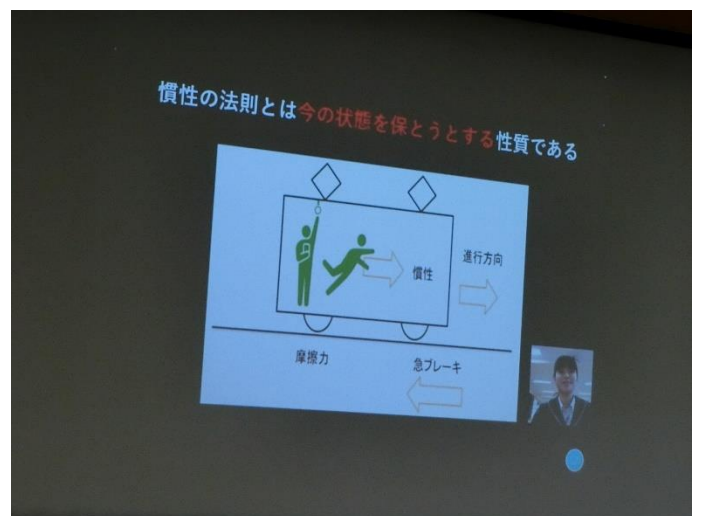
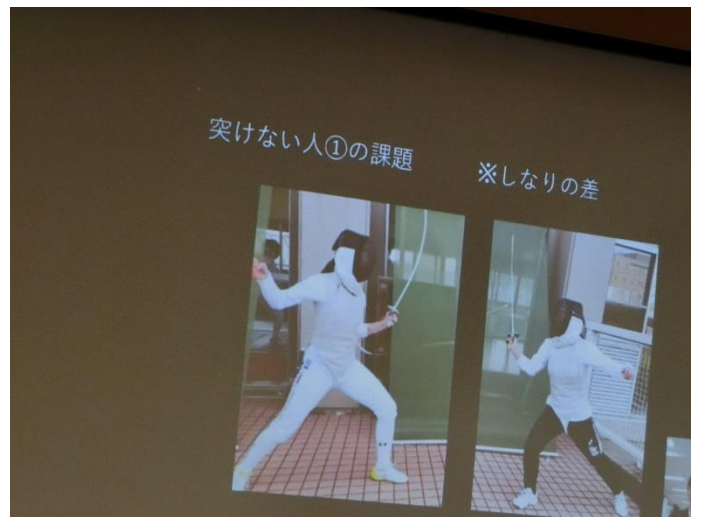
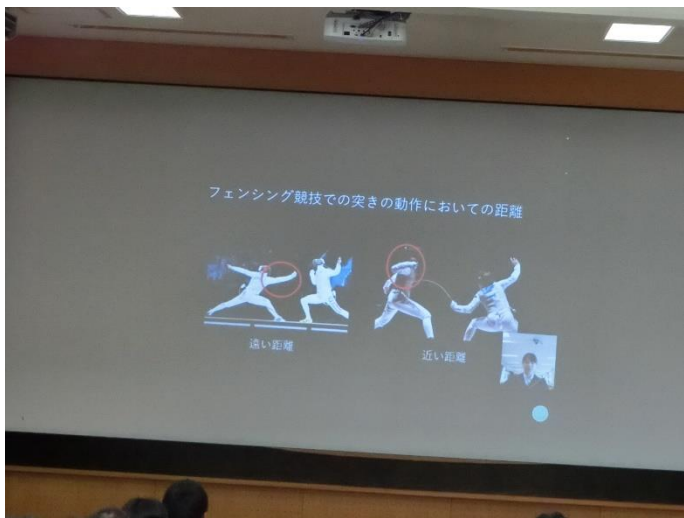
野田 昂汰・波多野 快斗 （久御山高校）

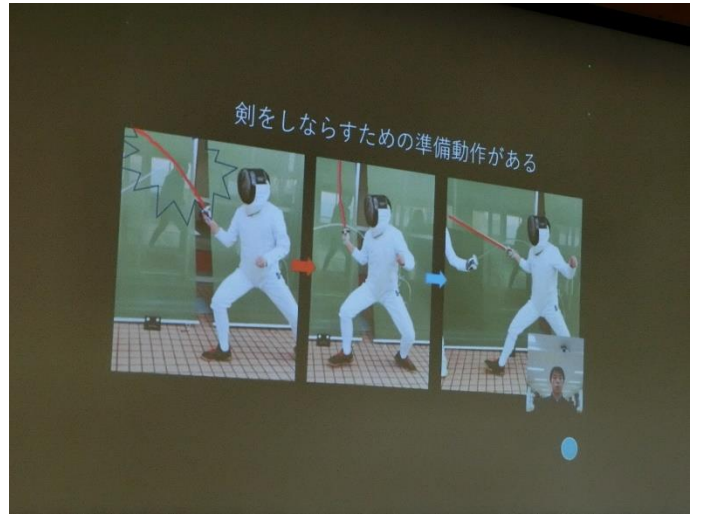
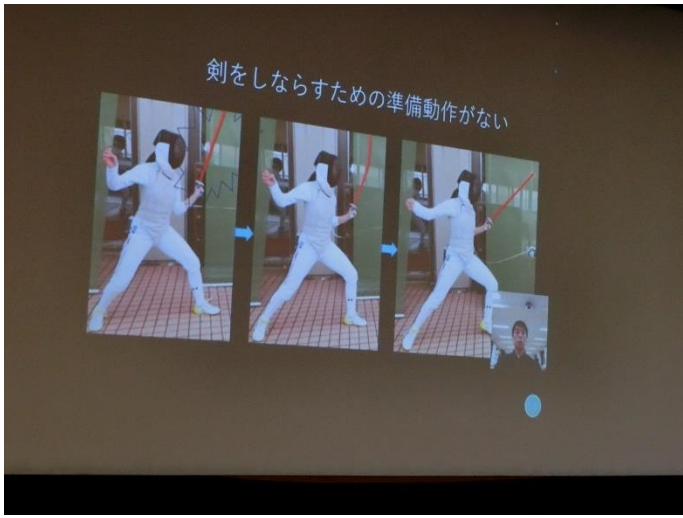
- (5) 「利き目、利き手とバントの構え方の関係性」

崎田 龍汰・四方 太陽（鳥羽高校）

- (6) 「フェンシング競技における近距離で突くための方法」

神山 侑奈・高橋 佑太・竹山 柚葉 （乙訓高校）





【リモートによる司会進行】

